ORIENTEERING JAPAN

O-JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/12

1993年［平成5年］12月10日発行
（毎月1回10日発行）
第10巻第12号通巻第125号
昭和63年6月24日第三種郵便物認可

[本誌へ掲載のため約６５%に縮小]

別所 虚空蔵尊

新潟県中蒲原郡村松町

―こくぞうそん―

慈光寺住職　佐藤信雄　書

別所虚空蔵尊は千二百年余の歴史を持つ古刹で、四十五代聖武天皇の代、天平二年（七三〇年）僧正行基が巡錫遊行のおり、奇瑞に依って百ヶ虚空蔵尊二体を刻み、うち一体を当地に安置したものと言い伝えられている。

この地図は新潟県オリエンテーリング協会作成の「三万五」および村松市発行の5千分の1行政図を基に、調査・作図したものである。

調査日　平成4年3月～平成5年10月

調査者　赤塚 晴一　石田 貴一　岩瀬 昭男　岩谷 周子
岩谷ひろみ　江部 恵子　金子 義雄　川上 孝
桑原 貴　近藤 克己　近藤 芳生　曽川 伸子
藤 勇　佐藤 明子　澤山 敏男　滝沢 敏子
竹内 義昭　竹内 孝　中野 悦四　中村 和雄
永井 恵一　永井 豊博　早津 純一　藤本 勉
松橋 四一　降旗由美子　丸山 則和　森下 幸子
森脇 覚洋　山崎 一郎　山崎 正志　渡辺 武雄

作図者　丸山 則和　降旗由美子　（協力）岩谷ひろみ

印刷　登勇印刷㈱　1993.10

縮尺　1：15,000　等高線間隔　5 m

地図記号

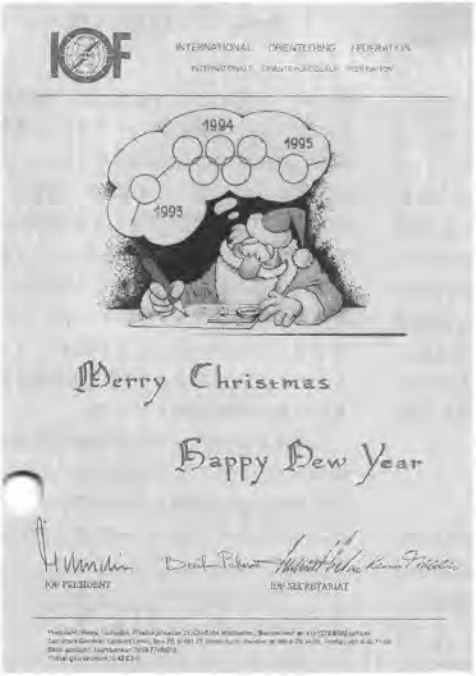
- 主要道路
- 道路
- 道
- 小道
- 小径
- 柵（通行可・不可）
- 植生界（明確・明瞭）
- 通行不能のがけ
- 岩がけ・土がけ
- 窪地・小堀
- 墓・墓地
- ほこら・炭焼窯跡
- 建物・鳥屋
- きれつ・みぞ・土塁
- こぶ・小さなこぶ
- 凹地・小凹地
- 穴・横穴
- 岩・石群
- 切株・倒木
- しいた付床
- 川（渡れない・渡れる）
- 滝水点・小川
- 季節的水路
- 池・小さな池
- 湿地
- 立入可能な開けた土地
- 荒地・雑林地・伐採地
- 立入禁止の開けた土地
- 果樹園
- 民家等の敷地
- 建物密集地
- 走行可能
- 通行可能
- 通行困難

新潟県オリエンテーリング協会

ORIENTEERING JAPAN
O-JAPAN

雨の西日本大会「計算センター」の裏方たち

京葉ＯＬ大会「表彰＝D21E」



□今月の表紙：久しぶりのフォトーＯ（８ページ）の第１ポスト。場所は埼玉県比企郡，東大ＯＬＫ作成のＯーマップ「道元平」の１ポイント。予算の都合で諦めていた本年のフォトーＯも，東大ＯＬＫのご厚意（地図無料提供）により掲載。

□今月の地図：１０月３１日，新潟県村松町で開催された第１５回朝日ＯＬ大会使用地図（24ページにControl Descriptions＝位置説明表）。　財間定義氏提供。

９３／１２月号・№１２５　目　次

●１９９３年　世界選手権大会［報告］　村越　真.....4-7
“JUST DO IT”“もっともコントロールされていないWM”“ショートのプランナーは語る”“ペター・トールセンとアンのレース回想”“日本選手たちの回想から”“次回のWMに向けて：課題と展望”“世界選手権代表に選ばれるまで”　入江　崇.....(6)

●第８回誌上フォトーＯ
協力：東京大学オリエンテーリングクラブ
出題：　竹澤　聡....8-11

●＝イベント・リポート＝　...12-13
「第１５回朝日ＯＬ大会」／
「第４回　広島ラブリーＭｏＭｏ大会」　財間　定義
「第１５回京葉ＯＬ大会」　佐藤　征男
「県民ＯＬのつどい（茨城県）」　田中　康正
ほか

●＝Ｏ－ＦＯＲＵＭ＝　...13-15
・「都市近郊のテレインの使用問題」を読んで　紺野　洋一，新帯　亮
・森林について正しい知識を持ってほしい　佐藤　征男
・やっぱり『ゲレンデ』を！　今村　元

●＝ＳＱＵＡＤより＝　SQUAD 広報担当：桐田　幸宏...16-21
［ＡＰＯＣ日本代表選手決定］［ＪＷＯＣ-成績結果］［ビデオ販売のお知らせ］［エリートポイント中間報告］［ＮＴ人物紹介］

●＝オリエンティアのための本棚＝
第５回：海老沢泰久「ヴェテラン」　文芸春秋社
文：村越　真／カット：早川喜代美.....22

●＝お知らせのページ＝　.....24
「連絡協だより」「情報あれこれ」「編集部より」

◇

ストリーマー

「コメ開放」。新多角的貿易交渉（ウルグァイ・ラウンド）の最終合意案を，この15日についに受け入れることになりそうだ。関税化の６年間猶予とそれまでの最低輸入義務（ミニマム・アクセス）を負うことになるようだ。以前，この欄で私は米のことを書いたことがあるが，有史以来の日本人の心のよりどころ「日本の稲作」が潰れることは悲しいことである。しかし，時代の流れを大局的に考えると，また今世紀の日本がとって来た「工業国化」へのツケが来世紀にまわってきたと考えると，やむを得ないことであろう。望まれるのは，21世紀の後半までも見据えた大胆な展望や政策を持ち，地球国家という広く心の大きい外交，つまり世界の真のリーダーが日本のトップに現れる（た？）ことであろう。このことは，私たちのオリエンテーリングの世界にも言えることである。期待したい。

流人

１９９３年　世界選手権大会

報告　　村越　真

●JUST DO IT

ニューヨークから北に１時間、高速道路８７号線に沿って車を走らせると、瀟洒なテラスハウス風の一群の建物が見えてくる。ＪＴＢで発行している「るるぶ」にも出ているアウトレット、つまり工場直送の２級品を売りさばく小売店舗群である。各種有名ブランドが格安で買えるとあって休日にもなると、埼玉のロジャースやイトーヨーカー堂の比ではない混雑に周辺の道路も巻き込まれる。こうした店舗（しかも一つ一つの店舗はかなり大きい）が１３５店も集まっているのである。とにかく消費者の好むやり方で売る、あとは各自の責任で買って下さいねという、いかにもアメリカらしいやり方である。レースのない日にここにいくと各国のチームが買物をしている光景に出会う。紅葉のきれいな自然以外となると（これはレースと練習中堪能している）、こんなところしか見所がないのである。

その一角にＮＩＫＥの店舗が出ていて私たちも随分と世話になった。ワッフルトレーナーという古典的な靴がたったの３０００円くらいで並んでいるのには泣かされる。Ｔシャツも様々なデザインがならんでいたが、ＮＩＫＥのテーマJUST DO ITというロゴが入っている。ここ３年の間にアメリカでのオリエンテーリングを何度か経験している私には、これこそが彼らの姿勢を端的に物語っているように思えた。「まあ、やるだけだよ！」そんな気持ちの少ない日本人の目から見れば、気の狂いそうになるほど「いい加減な」運営であった。８年前に初めてヨーロッパ以外で世界選手権が開催されたオーストラリアの時も確かにラフな運営であった。だがあの時には夢を実現したのだという力みが感じられた。今回のアメリカではそんなものはみじんも感じられなかった。

●もっともコントロール
されていないＷＭ

とにかく人手がたりない。北米のＯＬ雑誌ではしばしばボランティア募集の広告が出ていた。究極の募集はコースプランナーである。実力のあるものならどこの馬の骨でもとにかく徴用してしまおうというアメリカらしい発想の現れなのかもしれない。地図調査者の名前を見ても、２次調査はオーストラリアのＷＭをほぼ一人で支えたスティーブ・キーの名前が上がっているし、１次調査の数人を見てもアメリカ系以外の名前が多い。運営の役員もその多くは各地から集まったボランティアである。選手権前に開催されるトレーニングキャンプでは、通常５つくらいのテラインにコントロールが設置されて練習に供されるのだが、今回はたった２つ。事務局にいってみても年配のおじさんやおばさんがいるだけで、何か質問をしてもちっとも要領を得ない。何でもわかる中枢の役員は結局山の中の仕事が忙しくて表に出る余裕なんてなかったのかもしれない。そういえばリレーの前日の代表者ミーティングでは、「いまプランナーは山にいっているので・・・」ということで詳しい説明に答えられない場面があったとか。

山の中といえば、世界選手権では全てのコントロールに人が配置され、ラップタイムをとると同時に不慮の事故に備えることになっている。この役員たちももちろんかき集め。私が初めて遠征したスイスでの選手権では若い子供たちがこの役を努めていたことが印象に残っているが、今回は主として年配の人たちがこの任にあたっていた。雨のいまにも降り出しそうな個人戦の朝、彼らは選手の集まる駐車場の一角に集まりチーフの指示を受けている。「とにかくからだを濡らすな」そりゃそうだ。この寒さで身体が濡れたら途中計時どころではなくなる。心配したとおり雨が降り出した時、私は選手よりも彼ら役員の方が気がかりだった。案の定、いくつかのコントロールではほとんど計時がなされていなかった。

こんな状況には、ＩＯＦから派遣され

て選手権の質の維持に責任を持つコントローラーもさじを投げていた。「この大会の準備は非常に遅れている。従ってコントローラーのコントロールが十分におこなわれていない。そのことに対する責任はすべて主管者が負うべきものである」と。しかし、主管者側の認識はかなり違ったものであったようだ。

●ショートのプランナーは語る

ショートタイプのプランナーであったエリックは、「何が一番難しかったの？」という私の質問に対して、「ウーン、普通はこういう言い方をしないのだろうけれど、一番難しかったのはコントローラーのあしらい方かな。彼は本当にいい人なんだよ、でも気むずかしいのさ。ショートのコースは長すぎるというのだ、そう、あと５００ｍは短くというのが彼の主張だった」。コースのウィニングは２２分。もし５００ｍ短ければ優勝タイムは１７分程度になってしまっただろう。コントローラーはおろか、プランナーの予想を上回っている。「うん、世界のオリエンテーリングレベルは今も上がっている。トップのレベルでさえだ。私たちの予想をはるかに上回っていた。」

スウェーデンのヨルゲン・モルテンソン（前回クラシカルの優勝者）は、「決勝は易しすぎた。がっかりだ。ただ走ってパンチして、ってだけのオリエンテーリングだよ」と語っていたが、結果は今期絶好調で技術的にも素晴らしいペター・トールセンが優勝している。確実に地図を読み、技術を駆使しながら、トップスピードでレースをする、こうしたスタイルの確立が今回の好タイムを生み出したと言えるだろう。

「私たちは、一部の例外的な区間を除けばやぶを避け、レースのペースがあがるようにコースを組んでいる。技術的に高い要求をしながら、なおかつできるだけスピーディなコースを提供すること、それがショートの課題であった」エリックはコースプランの基本的な考え方についてこのように結んだ。確かに今回、クラシカルとショート、そしてリレーのそれぞれに個性あるコースを組むという試みは成功している。私たちは、これらのレースを走ることで、自分たちの実力や弱点を詳細に把握することができたのだ。

●ペター・トールセンとアンのレース回想

プランがどんなものであれ、ランナーはそれに全力を尽くして立ち向かうだけだ。クラシカルだろうが、ショートだろうが無関係である。「どちらが得意だって？どちらも全力で走るだけだ」とショートの優勝者であり４年前のクラシカルの優勝者であるノルウェーのペター・トールセンは言う。彼が描いてくれたショートのルートからはレース中彼がかなり地図読みに意識してレースを遂行していた様子が浮かび上がっている。彼は決してむちゃくちゃなスピードで走りきった訳ではない。むしろ彼のレースはコントロールに満ちたものだった。「クラシカルだって、ショートだってやり方に変わりはない。むしろショートのほうこそ冷静にレースをしようと思った。１番コントロールに向かう時、アタックで２秒ほど止まったよ。不確実にコントロールに入っていけば１０秒のロスをするかもしれない。しかし立ち止まれば確実にコントロールに到達できる。」彼は、予選にトップで通過した後のインタビューでも、明日への戦術はリラックスして臨むことだと語っている。こうした余裕、それを裏打ちするスピードや技術。結局はそうしたものの集積が優勝をもたらしたのだ。

女子優勝者スウェーデンのアン・ボルゲンも絶対ミスをしないようなレース展開を心がけたという。そのためにスピードを落とすべきところでは落とす。「もしそれで負けてしまうなら、その人が強かったんだわ、ただ今回はそんなふうに走れた人がいなかった。だから私が勝ったの」それは戦術というよりはむしろメンタル・コントロールの領域の話なのかもしれない。アンにしろ、ペターにしろ、レースペースを設定することで、ショートの成功をもたらすメンタル・コントロールに成功したと言えるのだろう。

●日本選手たちの回想から

優勝を争うようなレベルではなくても世界選手権には大きなプレッシャーや不安がつきまとう。今回の私たちはこの点に関して、十分な成果を挙げることができたと自負している。女子のコーチである山岸は、次のように総括している。

「たった４年前のスウェーデンの世界選手権では、レースに臨む選手の不安を打ち消し、レースの結果から肯定的な部分を見つけだすのが大仕事だった。２年前のチェコでは、外国テライン用のいわば「よそいき」の方法論がそんなにむずかしくないと思えるようになった。そして今回は、選手全員が日本と同じようにレースをし、日本と同じように成功し、ミスをしていた。なんという進歩だろうか。コーチとして驚かざるを得ない。」

どこでも通用する方法論や技術を日本の中でも確実に実行することで、私たちはここまでやってきたのだ。木植早生はクラシカルを次のように回想している。

「「まぁ、気楽にやってこいや」と自分に声をかけながら、ついにレースが始まった。地図を取った瞬間にその地形のものすごさが目に飛び込んでくる。何億年も前の恐竜時代、いやもっと以前に造られた大地を氷河が削ってできあがったこのテライン。思わず、地球が造りださ

れたころを想像してしまった。この激しい雨、岩山、崖、湿地、ヤブ、急斜面・・・、すべてを集めたハードで、ディフィカルトで、タフなテライン。そして巧みに組まれたコース。これぞクラシカルレースよ、そんな驚きが一瞬にして頭の中を駆けめぐる。」（報告書より）

積極的で、なおかつ落ち着いた心理状態で臨むこと、それがWMという大舞台でもできるようになってきた。ショートを走った福士のコメントも積極的なものである。

「Aファイナルへのボーダーまで2分30秒。このタイム差は振り分けられた予選組の運もあるが、前回はタイム差を見てただため息をつくだけだったのに比べ、もう少し貪欲な走りをすれば、悔しい！って叫べるぐらいの所までは手が届きそうな感触が得られた。」（福士：報告書より）

こうした積極さは、金子が回想するように、積極的な気持ちで準備を進めてきたことによるものだろう。彼女はWMでのレースに備えて1年前のトレーニングキャンプに遠征している。それがテラインに対する不安を消し、むしろワクワクした状態でアメリカ入りすることを可能にした。「さて、いよいよアメリカに着いて、山を走った私は1日目からルンルンでした。想像している地形が思ったように目の前に広がるのですし、しかもそれが日本にはない複雑で面白い地形なのですから、こんなに楽しいことはありません。日本にいるときと同じようにOLをすれば、同じようにできるという自信がつき、地形に対する不安はまったくありませんでした。もちろんミスもするのですが、これは日本にいるときもするミスなので今はしかたないと開きなおることにしました。」（金子：報告書より）

結果は残せなかったが、男子リレーもまた次への可能性を示すには十分の展開だった。トップと5分という好位置でのハードなレースを、カッシーは次のように振り返っている。

「フランスとハンガリーを前に見ながらスタートフラッグまで走る。1は慎重にアタックして無難にチェック。2へのロングレッグではいろいろな国がいた。地図でしっかりと現在位置を把握しつつ、周りのペースを利用してスピードを上げる。が、その後がいけなかった。2で不用意なアタックをして1分ほどのミスを犯す。あっという間に人の気配は消えてしまった。しかし諦めてはいけない。その後3までにニュージーランド、エストニア、ハンガリーと次々と現れた。パックで4，5と進み、ハイペースに何とかついていく。5では集団につられたエストニアが脱落。その後追いついてきたドイツを加えた4ヶ国が見えつ隠れつのレースをしばらく展開する。9でコントロールの遠かったハンガリーがまず脱落、荒っぽいOLをするドイツは12のミスで脱落。最後まで競っていたニュージーランドは14の手前で突然止まって地図を読み始めた。ここぞとばかり出し抜いて、そのまま逃げきってゴールレーンを駆け抜ける。

一所懸命走ると目をつむってしまう癖がある。だから異変に気づいたのはタッチゾーン直前だった。クーニー（国沢）がいない。いや、いた。ジャンパーを上下まとった姿で。すぐに村越さんが現れ、ゴールする僕を抱きかかえるようにして迎えた。「すまん」。村越さんの言葉ですべてを察知した。

日本の男子チームは結果を残せるだけのレベルにある。だからそういった意味では、今回成績を残せなかったのは残念である。誰もが、もし3、4走とつないでいたらと、想像してしまうに違いない。でも、そんな想像をしたくなってしまうような走りを2走までできたことが、今回の大きな成果なのではないだろうか。3、4走のクーニーや入江の走りが見られなかったのは残念であるけれど、チェコでの一応の成功が確かなものであったことが分かっただけでも大きな成果ではないか。」（鹿島田：報告書より）

●次回のWMに向けて：課題と展望

可能性が見えたショートやリレーとは違いクラシカルにはまだまだ遠い道のりが残されている。この点については今回クラシカルを走った国沢が次の3点が課題であるとまとめている。これらは選手個人というよりも日本のオリエンテーリング界全体でこそ解決できる問題でもある。

まず第一に、「テラインの制約や参加者の能力幅などの問題もあるでしょうが、エリートクラスでは90分台のウイニングタイムを尊重してほしい」こと、これによって「長時間にわたり集中力を維持するという機会」が提供されること

第二点に「クラシカルでのもっとも重要な課題はロングレッグにおけるプランニングとナビゲーションなの」だから、それと同様の課題を日本のコースも提供するようになること、第三に“高速でのナビゲーション能力”を付けることとまとめている。「最近の日本のエリートは走力の底上げが行われ、たんに走るスピードならばずいぶん向上したことはまちがいないのですが、それが地図とのコンタクトや方向維持を伴ってくると、そのスピードが生かしきれていない。速いスピードでのレースにもっと慣れる必要がある。

私たちは十分というには心許ない結果しか残すことができなかった。だが、WMを終えた今の気持ちは、随分とポジティブなものだ。次の吉田勉の言葉がそれを代表している。「男子チームには記録が残らなかった。しかし、記憶には残った。私たちの、いや他の国々の記憶にも残ったはずである。十分に闘えるチームに育っていると。

女子チームには2回続けて記録が残った。2人がベストに近いレースができた。次は4人がしっかりと走ろう。またたくさんの宿題が残った。が、今度の宿題は解くのが楽しみである。」

最後に今回初参加だった入江の感想を報告書からほぼ全文引用しよう。たった2年3ケ月でWM選手に選ばれたと聞くと、世界の誰もが驚く。それは偶然でもなくもって生まれたセンスだけに頼っていただけでもない。常に上の世界を目標にし、現実的な努力を怠らなかったものなら、誰にでもチャンスがあるのだ。次回、より多くの選手たちがWMを自分のものとして捉え、それぞれの挑戦をしてくれることを望んで記事を締めくくりたい。

● 世界選手権代表に選ばれるまで

入江 崇

オリエンテーリングを始めて半年ほどたったころ，金沢での都道府県対抗リレーの前夜、台風19号による停電の中で、外注となった夕食のカツカレーを食べていると、あちこちに見えるピンクのJAPANジャージが僕の目をひいた。チェコから帰国したWOC選手たちだった。夕食後、WOCのスライドや地図、報告書をみせてもらい、僕はとても興奮

した。いつかは僕も……と思ったものだ。

あれから２年。それを実現する最初のチャンスがやってきた。ＷＯＣの本セレクション出場が決定したのだ。でも僕はこれをチャンスだとは思っていなかった。選考基準はとてもきびしいものであり、自分が通るとはとうてい思えなかった。しかし、第２戦で予想外のトップを取り、通過してしまう。テラインが大の苦手とする「天神山」から大好きな「土山」に変更されていなかったら、自分は選ばれなかったろうし、もしトップではなく２位だったら推薦されなかっただろう。だけど、あれだけきびしい基準をクリアしたのだから、日本代表という立場に気おくれすることは全くなかった。

とはいっても、本番に対する具体的な目標を決めろといわれても、「そんなの走ってみなきゃわかんないよー」というのが本音だった。今回のＷＯＣ

今の実力で最大限速く走り世界を勉強してくるという心構えで臨んだ。そして２週間のアメリカでのトレーニングとレースとを通して、世界との力の差を知ることができた。ショートの結果にも満足している。そして何よりも世界に対する目標を設定できるようになったことが今回の最大の収穫だったと思う。

Classic Distance（ＭＥＮ）

出走８６人　13475m　UP690m

1	Allan Mogensen	ＤＥＮ	87.36
2	Jorgen Martensson	ＳＷＥ	88.07
3	Petter Thoresen	ＮＯＲ	89.28
4	Kent Olsson	ＳＷＥ	90.18
5	Rolf Vestre	ＮＯＲ	90.36
6	Dominik Humbel	ＳＵＩ	90.51
５９	鹿島田　浩二		115.47
７４	国沢　五月		127.08

Relay（ＭＥＮ）

1	Switzerland	217.16
2	Great Britain	217.31
3	Finland	218.20
4	Sweden	220.18
5	Russia	221.02
6	Norway	221.21
7	Denmark	223.18
8	Czech Republic	231.25
9	France	232.23
	：	
	：	
３０	Spain	364.33
	Japan	Disqualified

Classic Distance（ＷＯＭＥＮ）

出走８２人　8625m　UP410m

1	Marita Skogum	ＳＷＥ	62.27
2	Annika Viilo	ＦＩＮ	64.42
3	Yvette Hague	ＧＢＲ	66.09
4	Eija Koskivaara	ＦＩＮ	67.04
5	Kirsi Tiira	ＦＩＮ	67.37
6	Marlena Jansson	ＳＷＥ	67.43
６９	木植　早生		103.13
７５	福士　淑子		114.17

Relay（ＷＯＭＥＮ）

1	Sweden	168.48
2	Norway	172.51
3	Finland	176.59
4	Czech Republic	180.29
5	Russia	190.47
6	Switzerland	191.11
7	Denmark	191.50
8	Hungary	192.21
9	Great Britain	192.37
	：	
	：	
１７	United States	222.59
１８	Ireland	262.23
１９	Japan	292.06
２０	Slovenia	292.55
２１	Spain	362.50

第８回誌上フォト・オリエンテーリング

協力：東京大学オリエンテーリングクラブ＝東大ＯＬＫ

東京大学オリエンテーリングクラブ（東大ＯＬＫ）は今年で創立１５周年を迎えます。ＯＬＫがここまで成長できましたのも，オリエンティアの皆様の暖かいご支援によるものです。

そこで皆様に深く感謝の意を込めてフォトーＯを提供いたしますのでお楽しみください。

今後ともＯＬＫと杏友会（ＯＬＫのＯＢ・ＯＧ組織）をよろしくお願いいたします。

マッププロフィール

マップ名「道元平」埼玉県比企郡。1988年のＯＬＫ大会に使用しました。現在はテレインの東半分（東から数えて３本目の磁北線より東側）にゴルフ場ができてしまっています。植生は地図で見る通りですが，冬はそれほど悪くありません。

答がわかった方は

〒349-01　埼玉県蓮田市桜台2-2-4
竹澤　聡

まで地図のコピーに赤ペンで答を，裏面に氏名・クラス名・クラブ名等を記入してお送りください。正解者には粗品進呈。コメントもよろしくお願いします。

●締切は１月２０日（必着）

正解と正解者の発表はＯ－ＪＡＰＡＮ２月号の予定です。

□

コースプロフィール

●直線距離　28.5 cm.

●アップたくさん（数え方によって異なりますが，約275m）

コントロールの難易度はＢ～Ｃ。ヤブい所もルート上でちょっと通ります。コースのかたちもまあまあです。

●コースプランニング……竹澤　聡　／　撮影……伊藤夏夫

ヒント

その①：写真を撮影した順序は，６→５→４→３→２→７→８→１→スタート→ゴール。

その②：コースはループしています（１回）。

その③：写真とともに位置説明にも注意してください。

仏のヒント（どうしても解らないとき，または答合わせにご利用ください）

スタート…手前に見えているのは堰です。

１番ポスト…大きな岩が並んでいるところは？

２番ポスト…コース中，最北ポスト。

３番ポスト…コース中，最西ポスト。

４番ポスト…わかりにくいですが，手前から奥に向かっているのが小道です。

５番ポスト…４番の近くです。

６番ポスト…ついでに沢も分岐しています。

７番ポスト…小径から撮影しました。

８番ポスト…写真には，ほこらがいくつか見えますが，地図上では一つの×で表されています。

ゴール…ラスポからテープ誘導１km以上！

スタート
池　南東の角
３２２度
（カメラを向けた角度）

1番ポスト　西の大きな岩　南西側　６０度

2番ポスト　北の小径の分岐
３１０度

3番ポスト　凹地　南のふち　　１４０度

4番ポスト　小道と植生界の分岐
３３度

5番ポスト　あんぶ　　１００度

6番ポスト　季節的水路の分岐
６６度

7番ポスト　植生界の北西の角
１６６度

8番ポスト　ほこら
８５度

ゴール　　北の道路と道の分岐
１４５度

□1993年10月31日

第15回 朝日OL大会

■新潟県村松町

リポーター:財間　定義（島根OC）

《日寺》今回の'朝日'は，直前の日曜日にあった「第1回ショート・インカレ」と並んだことが影響，殊に遠方の学生は遠慮されたようです。

天候は，しぐれ・時おり大雨も襲来しました。

《戸斤》「リメイクの朝日」と言われることもあるようですが，今回のテレインも嘗ての「三万石」というマップのリメイク⟹名付けて「虚空蔵尊」。奈良時代，名僧「行基」が巡錫，この地で虚空蔵菩薩の尊像を彫刻。それを安置したお堂が，今も尊崇されているという。新潟市のほぼ南隣に位置。

《人》新潟には，サイクルO分野の指導者が複数居られ，その種目も今回・JOA公認大会に初登場（個人32人+トリム5組が参加）。サイクルOが大好きな私は，こうした試みが今後も継承されるならば，オリエンテーリングの裾野がサイクリスト層に広がるので歓迎！

□1993年11月3日

第4回 広島ラブリー MoMo大会

■広島県庄原市

リポーター:財間　定義（島根OC）

《日寺》広島県庄原市七塚原高原。毎回「MoMo大会」と呼称されている。それは，牛の愛称である。この一帯は，ポプラ並木に牛舎・牧場という北海道的な雰囲気（明治以来の種畜牧場・畜産試験場が置かれた高原）。パーマネントコースも置かれ，毎年5月5日にはオリエンテーリング大会が開かれている。

マップは今回も新改定のもの。ご当地特産の農産物が豪勢に景品としてサービスされるのは今回も同様（来年，この県で開催されるアジア競技大会の成功を目指す県民運動母体「ひろしまは変わる10万人委員会」のバックアップの賜物）。

もちろん来年も継続開催の予定と発表された。

《人》広島駅からは無料バスが繰り出され，それを含めて600人の参加。

個人Aクラス以上の"トップ2"は…

W21A	6600m	
①三明	晴美（広島大OLC）	52'30"
②植田	佳子（広島大OLC）	54'09"
W30A	6600m	
①吉岡	康子（OLC 吉備路）	1h33'28"
W40A	6000m	
①池田	富子（大阪OLC）	1h09'08"
W17A	6000m	
③堀口	千鶴（OLC 吉備路）	1h16'47"
M21A	8900m	
①吉村	年史（広島大OLC）	1h02'43"
②鈴木	尚志（山口大OLC）	1h04'49"
M30A	8400m	
①大畑	秀人（島根OC）	1h09'10"
②大森	和実（OLC 吉備路）	1h16'21"
M40A	8400m	
①土井	孝憲（広島県）	1h21'18"
②尾和	薫（三河OLC）	1h21'43"
M50A	6600m	
①伊東洋一郎	（OLC 吉備路）	55'49"
②池田	忠士（OLC 吉備路）	55'50"

□1993年11月14日

第15回 京葉OL大会

■千葉県山武町

リポーター:佐藤　征男（水戸OLC）

今日のスタートは11時46分と遅い時間帯で，H50Aクラスではラストから3番目。最近は何故かトップとかラストなどのスタート時間帯となっている。

千葉県の日向は平坦な地形で古くから林業地帯として知られている山武杉の林の中。小径や微地形が多く，地図読みと走力が共にバランス良い人が有利と思われるテレイン。

スタートからポスト①(205) は小径や小道をつないで走る。今日は気温が高くむし暑い。すぐに汗びっしょりとなってしまう。先行者のトレールがぬかるみとなっていて，まるで雪解け後の道のようで走りづらい。ポスト①→②(212) はコンパスで直進して一発。1分後にスタートしたシロラさんに追い抜かれる。パワーのある走りだ。とても勝てそうにない。ポスト②→③(227)。②のチェック後の記憶が何故かとぎれている。記憶がまったく無い。③はポストの東の沢に入りポスト無し。西側に戻り沢に入ってチェック。③→④(236) は直進するよりも，小径や小道をつなぎ走る方が起伏が小さく思えたので，三角形の二辺となるが小道を走る。④→⑤(239) は直進して一発でチェック。⑤→⑥(246) は直進して行くと送電線の鉄塔が目の前に飛び出してきた。位置がはっきりしているのですぐポストへ。⑥→⑦(245) は小道を使う。途中，杉の新しい伐採地を通過して小径を走ると目前にポスト。ここで11分前にスタートしたAさんを追い越した。ちょっと声をかけてきたがうなずいた程度にする。⑦→⑧(229) はルート選択の難しいところ。大きく東側を迂回して地図のエリアいっぱいの道路まで出て，水路に沿って走る。踏み跡もほとんどない。水のある溝からアタック。東西にウロウロしてポストへ。⑧→⑨(221) は直進から小道へ湿地を横切り，東から西に斜面をトラバースするように，小さな尾根や沢を乗り越えて，木の間に見え隠れする対岸の住宅の建物を目標にしながらポストへ。ここで2分前にスタートしたBさんを追い越し，Bさんから『疲れているようだなあ。』と声をかけられる。俺も体力がなくなったのかなあと思う。ここで大学生と思われる女性から現在位置を聞かれ，自分の地図で位置を示して教える。⑨→⑩(259) は，またまた小道を走る。途中ポスト⑪に行きかけてしまい，約60m逆戻りして⑩に向かう。⑪を先にチェックしてもよかったが，真面目にポスト番号の順にした。アタックはコンターを読んで，先行者のトレールと地図の小径を間違わないように注意してポストへ。⑩→⑪(262) は出入りして小道，小径を使ってアタックするも，ポスト無し。尾根の少し上部にいたようだ。反対斜面の小屋を目標にしてポストへ。⑪→⑫(218) は直進して植生界の角からアタック。ここは，西側にぐるっと迂回するルートもあるように思ったが，ちょっと遠く感じたこと。ポスト⑦→⑧の時に大きく迂回したので，ここは直進がベ

ターと思ったが見事に成功した。迂回ルートをとると通行禁止エリアがあり失敗したかも知れない。⑫→⑬(888) は道路に出てひたすら走る。前方の道路を歩いている人ばかりに逢うので，気合いがなくなってしまうような気がした。ゴールまで約1300m。アゴを引いて腕を大きく振って，マラソンのラストスパートのように懸命に走った。

スタートの時に時計のスイッチを入れるのを忘れ，自分では計時できなかったが，速報は１時間41分32秒，第10位だった。１位のシロラさんとの差は22分33秒。ちょっと差はあり過ぎたが，近年不振だったＯＬの勘を少し取り戻してきたようだ。

距離8300m。地図上でキルビメーターで走った距離を測定したら9800mあり，地図の表示距離の１８％多く走ったことになった。表示距離から求めた１km当たりの所要時間は12分余り。３倍も余分にかかったことになる。どうしたら地図を読みながら速く山野を走れるか課題は多い。

スタート時間が遅かった分，何年かぶりでエリートクラスの表彰を見たり，写真を撮ることができた。この表彰の様子は陸上競技の全国大会の表彰式で見た，赤いじゅうたんが敷かれ，真っ白い箱の表彰台に上り，テレビのライトを全身に浴びて直立不動の姿勢で表彰を受ける，あの感激した緊張感や，日本のトップレベルの選手を讃える言葉はない。応援席や関係者からの感激の拍手や激励の言葉は飛ばない。体育館の壇上の表彰を，多くの人たちは無関心を装うように，雑談をしながら横目で眺めている。競技の表彰というよりレクリェーショナルの色彩の強いたいへん和やかで，まさしくＯＬらしい表彰風景であった。

□１９９３年１２月５日

ＯＬ県民のつどい

■茨城県行方郡玉造町

リポーター：田中　康正（茨城ARDF）

一週間前に県のＯＬ協会から案内をいただき，わがクラブ員を動員して参加しました。

トリムＯＬでしたが，小学Ａ，Ｂ，家族にくらべ，男子・女子は人数が少なかったことで主催者の計らいで‘個人’を走ることができました。

朝は良く晴れ寒いほどでしたが，目の前に霞ケ浦を，遠くに筑波山を見据えてのオリエンテーリングは，久しぶりに自然を堪能したものでした。いつもは地図とにらめっこが多く，自然を楽しむなどしたことがありませんでした。

地図は平成３年作成と新しく，道や道路の違い等２，３か所はあったものの大きな変更はありませんでした。

スタートとゴールが同じ玉造町総合運動公園内の陸上競技場の一部を利用しての大会でした。

風土記の社と名があるように，回ってみると各所に名所旧跡の立て看板があり，思わず引き込まれそうなテレインです。ＯＬ大会以外にもゆっくりと探索したい場所のひとつになりました。

この場所は残念ながらパーマネントコースはありませんが，総合運動公園内のＢ＆Ｇの事務所に地図はあります。探索する方はご相談ください。国道３５４と３５５の交差点から約２kmです。またはJR「石岡」駅乗り換え，鹿島鉄道「玉造町」駅下車，徒歩30分ぐらいです。近くに６０ｍタワーの「霞ケ浦ふれあいランド」があり，帰りの見学にぜひお勧めします。

あるローカル大会に参加して

１０月１０日，ある県ＯＬ大会に参加，当日は，たまたま「当日参加」で汗を流しました。

大会も大づめ，表彰式へと進み，速報の「タンザク」を信じ楽しみに待った。速報では表彰圏内，しかし表彰式が終了しても私の氏名のコール無し，責任者らしき役員にその旨を尋ねたところ，当日参加者はすべてオープン参加との返事，参加要項には「当日オープン」の活字無しと言うと，横の女性役員いわく「どこでも当日参加はオープン」という言葉を聞き，これは少し勉強および経験不足と感じました。しかし，せめて速報の「タンザク」にオープンの文字でもあれば，少しは救われたと思いました。当日参加の私にも「確認」の，うんぬんはあったかも知れませんが，待ち望んだ表彰を踏みにじられ谷底に突き落とされた思いでした。

せっかくの「いい汗」も悪汗に変わり大変不愉快な大会参加となりました。帰路の車のハンドルも重く，アクセルペダルに力が入りました。大会運営者の一人として，今後の大会運営に際して，参加者に「いい汗」を最後まで「いい汗」で終わる大会になるよう，反省させられる大会参加でした。

参加者に誤解のない大会運営を望みます。

［匿名・当日参加者より］

―Ｏ－ＪＡＰＡＮ　販売品のお知らせ―

■テレフォンカード

創刊１０周年を記念して作成しましたテレフォンカード（５０度数）をお頒けしております。1枚　１０００円

ご希望の向きは，封書で「テレフォンカード○○枚申し込み」のメモと，¥1,000 ×枚数分の金額の郵便小為替または為替，62円切手貼付・宛名明記の封筒を同封してお申し込みください。＝１月１５日必着でお願いいたします。この日以降は返送用封筒には80円切手を貼付してください。

□

■セパレート式チェックカード

現在，在庫がなくなりました。１月に増刷予定ですので，お待ちください。

「都市近郊のテレインの使用問題について」を読んで

紺野　洋一（東京ＯＬクラブ）

まず，非常に高度な生物学的な知識を持って書かれた文であるという感銘を受けました。現実にあのような状態にあるなら，話題に上がったテレインについては即刻使用を自粛すべきだと思います。神奈川県ＯＬ協会がその旨の宣言をし，関係各位に申し入れるのがよいのではないかと思います。

関連して，日頃私が感じていることを申します。東京近郊のテレインは，かつてはもっと通行可能度がよかったと思います。事実，1976年の狭山湖の周囲で開かれた「武蔵野大会」の地図と，その何回目かのリメイクである「さやまみね」の地図を比べても明らかです。通行困難箇所が相当増えています。ヤブがきつくなっている理由もはっきりしており，里山の手入れをしなくなったからです。で，多くの古くからのオリエンティアは「ヤブがきつくなった」と嘆き，「よいテレインがない」と苦労するわけです。

結局いくら嘆いても林がきれいになるわけではないのは当たり前で，大会開催地はますます都心から離れていくことになります。

私が何人かのクラブ員に話してみたことがあるのですが，よいテレインを求めて捜すより，日頃お世話になっているテレインと地主の方に感謝の意を込めて，林の手入れをさせてもらったらどうかということです。当然手入れの方法は地主の許可と指導を受けることが必要です。かなりの労力と時間をかけなければ，１枚の地図をきれいにすることはできないでしょう。しかし，有川氏の文にもあったように，林を荒らすスポーツではなく，ＯＬのテレインになったら林がきれいになったという評価を受けられれば，こんなよいことはないと思うのです。草刈り十字軍というのがあった（今でもある？）ように，テレイン手入れ隊を募ってみてはどうでしょう。私の勤務する大学でも，年１回学校林の手入れのために教職員・学生を動員しています。林の手入れもさることながら，投げ捨てられているゴミも拾ってくれれば，地主の方にも感謝していただけるのでないでしょうか？

幸か不幸か，当クラブで作った都内のテレインの地図はなくなってしまいましたが，１クラブのワクを越えて何か行動を起こせたらと考えています。

新帯　亮（つるまいＯＬＣ）

１０月号の有川さんの記事を拝見しました。私の意見を述べさせていただきます。

私は有川さんの意見に全面賛成です。有川さんが最後に述べておられるように，『ＯＬ界に問題意識が定着』することが大事であり，これができて始めて，ＯＬはスポーツとして一人前になれるのだと思います。有川さんが心配されておられるように，この問題を放置すれば，必ず近い将来，ＯＬはつぶされるという危惧を私も持っています。

「三保市民の森」のように，すべてその問題がはっきりしているところでは即刻，地図作製者が地図回収，ゲレンデ使用禁止の処置をとるべきです。自然保護団体等の影響力は，一般に考えるよりはるかに大きいものです。今後は，ＯＬのあらゆる段階で，いわゆる「環境アセスメント」的な自主規制が行われるよう，各クラブ，各組織で活動されるべきと思います。

森林についての正しい知識を持ってほしい

佐藤　征男（水戸ＯＬＣ）

都市近郊のテレインの使用問題について有川氏の投稿を読ませていただきました。先ず，率直に私が感じたことを簡単に一言で申し上げるならば，ＯＬのテレインの大部分を占める森林について，正しい知識をオリエンティアに教育普及させることが大事であると強く感じました。私は，前から森林についてオリエンティアはどんな知識をどれだけ持っているか。そして，その知識は学問的に，あるいは社会常識として正しい知識であるかどうか。また，正しい知識であるとすれば，それはどの程度のものであるか，と思っていました。

提起されているような問題についても議論する必要があると思うが，それは社会的にも学問的にも正しい知識に基づくものでなければ議論しても何の意味もない。そこで，今回感じた森林等に関する用語の解釈について，特に明確にしておきたいことについて申し述べます。

1）切り株管理

農家，林家あるいは森林，林業用語として使われていない。ほう芽更新のための柴刈りの意味なのか。

2）林業資源

森林，林業用語として使われていない。これは森林資源が正しい。解釈は天然資源のひとつ。鉱物などの地下資源，魚介類，海草などの水産資源と同じく，人類の生活に必要な物質，ただし，森林は地下資源のように絶対量のある採掘資源でなく，造成による再生産可能な持続的利用可能な資源である。

3）椎茸床

この用語がＯＬ界で使われ出したとき，大会終了後に文書で主催者に申し入れたが，地図の説明にその後も度々使われている。農家，林家，森林，林業用語に無い。これは，『ほた場』という。ほた木を伏せ込む場所のこと。きのこを自然発生させたり，ほた木の休養に使う。林内や人工的に被陰した場所を利用する。

4）ほた木

きのこ類の生産に用いる原木。栽培するきのこの種類によって，原木の樹種も異なる。シイタケ栽培ではクヌギ，コナラを最良とする。

5）地主の相続税

相続税は地主の世代交代時に課税されるもの。したがって数十年に一度の課税である。むしろここでは，毎年納める固定資産税を主に説明すべきである。都市近郊の森林である場合，都市計画法の適用次第では宅地並みの課税となっている場合がある。したがって森林であっても一般地域の森林より税負担は重くなる。

6）地元自治会

森林の管理は一般的に地元自治会には

関係ない。森林の所有者や保有者は地元に住んでいない場合が多い。また，人数もかなり多くなり，所有者などもはっきり分からない場合が普通である。このため，便宜的に地元の了解を得る手段として自治会に了承していただいているのではないか。現に私の所有する森林では，私に無断でポストを設置してＯＬ大会を堂々と開いた大学がある。大学では当然森林所有者の了解を得ていると思っているだろう。私はこの大会に参加して，たまたま自分の森林内のポストをチェックした。主催者からも自治会からも何の連絡もない。もちろん自分の森林の管理を地元自治会に依頼したこともない。私から抗議されても自治会では何の責任も持てない。

7）遺伝資源の保全

植物をその遺伝的な有用性からみたとき，これまでに育種素材として人間によって利用されてきたか，あるいは将来にその可能性のある植物を総称して，一般に植物の遺伝資源という。なお，この遺伝資源が特定の機能を持つ遺伝子のレベルで認識された場合には，遺伝子資源という。新たに品種を作出するためには，多様な遺伝的形質をもった野生動植物の利用が不可欠であり，そのために現在地球上に存在する遺伝資源の消失を防ぎ，それらのより多くを保全しておく必要が指摘されている。

8）林野

森林と森林以外の草生地（森林以外の土地で地目が他の地目区分に属さず，野草やかん木類が繁茂している土地）とを合わせたもの。不動産登記法上の分類では，山野と原野を加えたものにあたる。

9）森林

樹木が群生している状態。森林法では山林に未立木地を加えたものをいい，森林法第２条では（①木竹が集団して成育している土地およびその土地の上にある立木竹，②前号の土地の外，木竹の集団的な成育に供される土地，ただし，主として農地または住宅地若しくはこれに準ずる土地として使用される土地及びこれらの上にある立木竹を除く）と定義されている。

10）森林所有形態等

日本の森林は国有林と民有林（公有林，私有林）に大別され，国有林は大部分が林野庁の管理経営する国有林野で，一部文部省が管理する演習林などがあ↗る。公有林は都道府県有林，市町村有林，財産区有林の総称。私有林は個人有，法人有，共有などに属する森林。所有面積は国有 786万ﾍｸﾀｰﾙ(31%)，公有 270万ﾍｸﾀｰﾙ(11%)，私有1465万ﾍｸﾀｰﾙ(58%) となっている。

なお，森林法に基づき森林所有者ごとに森林の種類，樹種，林齢，面積，材積，蓄積，成長量，森林の機能部分，立地級などを記載した台帳と5000分の１の地形図（森林基本図）および森林施業図があり，大型電算機により管理している。これらは，世界に冠たる日本林業の成果であるが関係者以外には非公開である。

やっぱり『ゲレンデ』を！

今村　元（東京ＯＬクラブ）

前号の編集長コメントによると『テライン』ではなく『テレイン』が正しい発音に近いとのこと。いままで誰もこの発音記号に気が付かなかったのですね。

ところで，我が国のオリエンテーリング界ではカタカナで表記した英語の単語が沢山使われています。これらの中には適切な日本語がないため英語表記を使用しているものもありますが，立派な日本語があるのにフツーの日本人（初心者や部外者）には理解できないカタカナ英語が使われています。来年改定公布されることになっている日本オリエンテーリング競技規則（案）では旧規則で使っていた「タイム」を「時間」に，「大会カテゴリー」を「大会区分」に，「ナイトＯＬ」を「夜間競技」に修正してあり，まことに結構なことと思います。ところが，使用頻度が高い「ゲレンデ」を「テレイン」に変更するようになっているのです。ドイツ語の Gälende に由来する「ゲレンデ」は既に完全に日本語化していて広辞林や日本語大辞典にも掲載されていて，いまや誰でも知っている言葉になっています。なぜゲレンデではいけないのか，ドイツ語圏諸国のＯＬ規則ではまさか Terrain などという英語は使ってないでしょう。そのほか気になる術語としては「コントロール」（慣れ親しんで来た「ポスト」でなぜ悪い），「ジュリー」（例えば審判団はどうだろう），「コンター」（等高線というりっぱな日本語が存在する）などいろいろありますが，いずれにせよ仲間内だけの業界隠語はやめましょうよ。なお，以上はすべて個人の意見で所属クラブは係りありません。

広告掲載のお願い

第１６回インカレ実行委員会
広報担当責任者中山　徳良

ただ今，第１６回インカレ実行委員会では，プログラム・大会報告書に掲載する広告を募集しております。勧め先，所属クラブなど何でも結構ですので，皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

なお，広告掲載の依頼書の必要な方は問合せ先までご請求ください。

【広告掲載の場所】
大会プログラム，大会報告書

【広告の大きさ】
1/8 ページ（縦58mm，横74mm）を１コマとして，1,2,4,8,16コマ単位

【広告料】

	企業等	地域ｸﾗﾌﾞ 大学OB会
1ｺﾏ(1/8ﾍﾟｰｼﾞ)	6,000円	3,000円
2ｺﾏ(1/4ﾍﾟｰｼﾞ)	12,000円	6,000円
4ｺﾏ(1/2ﾍﾟｰｼﾞ)	20,000円	10,000円
8ｺﾏ（1ﾍﾟｰｼﾞ）	40,000円	20,000円
16ｺﾏ（2ﾍﾟｰｼﾞ）	70,000円	35,000円

ただし，裏表紙　　60,000円
表紙見返し　50,000円

プログラム，大会報告書の両方に広告を出される方は，いずれか低い方の料金を半額にさせていただきます。

【申込方法】
広告料を添えて原寸大の原稿を下記申込先まで送付してください。その際に掲載場所が大会プログラム，大会報告書，両方のいずれなのか明記してください。

◆郵便為替の場合
〒174 東京都板橋区常盤台3-28-10-407
中山　徳良

◆郵便振替
口座番号：東京１－703005
加入者名：中山　徳良

【締切】
平成５年１２月３１日
平成６年３月２５日（大会報告書のみに広告を掲載する場合）

【申込先・問合せ先】
中山徳良　TEL 03-3968-7995
(pm 11:00 くらいまでにお願いします)

SQUAD REPORT

WOC SQUAD JAPAN はナショナルチームをサポートしています

APOC日本代表選手決定

この年末年始、ニュージーランド北島にて開催されるAPOC９４団体戦の日本チームメンバーが決定した。男子１チームと女子２チームが日本代表として参加する。メンバーは右の通り。APOCを含む１２日間は右の様な日程でイベントが用意されている。リレーを除く６つのイベントは、成績の良い５レースでポイント競争にもなっているそうだ。APOCカーニバルと呼ばれる。

主な代表選手の抱負を紹介しよう。

日本代表メンバー

団長：	寺嶋一樹
男子：	富田吉郎
	平井均
	元木悟
女子：	加納尚子
	木植早生
	金並由香
	鈴木夕紀子
	田島利佳
	長谷川恵子

大会日程

１２/２９	開会式
１２/３０	イベント１
１２/３１	イベント２
１/　２	イベント３
	（兼　ニュージーランド北島選手権）
１/　４	イベント４（APOC個人戦）
１/　５	イベント５（APOC団体戦）
１/　８	イベント６
	（兼　オーストラリア対ニュージーランド対抗戦）
１/　９	イベント７・閉会式

元木　悟

筑波大学第２学群農林学類卒
農林水産省長野県中信農業試験場　勤務
長野県OL協会　常任理事　事務局長
SQUAD　正会員
RMOｻｰﾋﾞｽ　EventProducer　&　Mapper
【主な戦績】
第11回インカレ　HE団体２位
第13回千葉大　HE７位
第16回筑波大　HE５位

1989.筑波大学３年次からNational teamのメンバーに入れていただき、卒業後もNational team→WOC SQUAD JAPANと活動してきましたが、海外でのＯＬは初めての経験です。National teamメンバーの海外でのＯＬの活躍を見ているうちに「海外遠征したいなあ」と最近とみに思うようになりました。研究職で、しかも生き物相手という仕事柄なかなかまとまった休みがとれないのですが、今回は年末年始開催、更にレース数も多いAPOCで日本代表という好運に恵まれ、今からとても楽しみにしています。

将来はきっと日本で、そして長野県でもワールドカップや世界選手権を開催する機会もあるでしょうし、選手としてレースを楽しむとともに、大会運営者の目でAPOCから多くを吸収してきたいと思います。

11月23日

富田　吉郎

今年の夏に不注意から怪我をして、O-Cupの砂丘テラインを目の前にしてレースに参加できず悔しい思いをしました。その反動から秋のレースにはフル出場しているのですが、レース前の緊張感やスキーのダウンヒルよろしく斜面を駆け下るスリルなど、とても新鮮で、いつになくわくわくしながらレースをこなしています。そんな最中に私がAPOC94NZの代表に選ばれたのは、降って湧いたように突然のことでした。しかも『ちょっとおつかいに行ってきて』『いいですよ』ぐらいの簡単なやり取りで決まったのには驚きました。（世界選手権もこんな調子だと楽ですよね）。そんなインスタントな代表ではありますがWOCを目指すオリエンティアですから日本代表の看板を背負って走れることはとても光栄なことだと感じています。個人戦、団体戦２日続きでハードですが、健康にオリエンテーリングのできる幸せをスピードの源として、気合いの入ったレースをしたいと思っています。

東京高専ＯＬＣ出身
多摩ＯＬ技術部長

加納　尚子

今回、ニュージーランドAPOCに、日本代表チームで出場できることになったわけですが、選考にはセレクションもなかった分、気楽すぎてこれでいいのかな、という感じもあり、実感がまだつかめてません。この春のセレクションでボロボロだったコンプレックスが尾を引いているのかもしれませんが、こんな私が、という気持ちとともに、いいかげんにしたくない思い入れも強くあります。

ここ最近の自分のＯＬに喝を入れるいい機会だと思います。（現時点ではまるで階段の１段をのぼれないで足踏みしてる状態のままみたいな感じですから）挑戦者の気持ちで、思う存分わくわくして走りにいこうと考えています。

鈴木　夕紀子

「APOCに日本チームで出ないか。」とお話しがあったとき、喜んで引き受けました。昨年はオーリンゲンに参加し、今年はWOCの最終セレクションに残り、気合いの入っていたときに今回のお話。本当にありがたいと思っています。

オリエンテーリングを続けてきて、最近、やっと世界に目を向けることができるようになってきました。今年のWOC選手の方々は、「日本と同じようにオリエンテーリングができた。」とおっしゃっていましたが、私も自分のオリエンテーリングが出来たらと思っています。しっかり準備をして、自分のベストを尽くすことが出来るようがんばります。

JWOC成績結果

7月にイタリアで行われたJWOC（ジュニア世界選手権）の成績が届いている。今回は男子3名の選手【鈴木篤（早大2年）・諏訪高典（京大2年）・森泰祐（山口大2年）】が参加し、健闘をしてくれた。

ショート（Cファイナル）
2700m　↑105m　p.9

1.	BUKOVAC MAROS	SLOVAKIA	18.01
2.	MICHAELI PASCAL	BELGIUM	18.10
3.	GRECU HORATIU	ROMANIA	18.34
11.	諏訪　高典	JAPAN	24.36
14.	森　泰祐	JAPAN	25.14
＊	鈴木　篤	JAPAN	

クラシック（完走118人）
10800m　↑430　p.27

1.	TELLESBO ODIN	NORWAY	70.50
2.	NORGAARD TORREN	DENMARK	72.41
3.	TOLKKO TOMMI	FINLAND	72.54
104.	森　泰祐	JAPAN	114.58
105.	諏訪　高典	JAPAN	119.30
108.	鈴木　篤	JAPAN	125.49

リレー

1.	FINLAND		
	MARTOMAA SIMO	40.49	121.55
	TOLKKO TOMMI	43.10	
	LEPO MIKKO	37.56	
2.	NORWAY		
	HOTT JOHANSEN HOLGER	40.33	122.08
	BJORNSGAARD BERNT	42.12	
	TELLESBY ODIN	39.23	
3.	POLAND		
	BANACH ROBERT	39.58	123.57
	MIKUSINSKI DARIUSZ	43.00	
	PORZYCS JANUSZ	40.59	
4.	RUSSIA		
	MORASHOV IVAN	41.08	126.08
	FADEEV EUGENIY	45.31	
	NOVIKOV VALENTIN	39.29	
5.	SWITZERLAND		
	PLATTNER CHRITOPH	41.02	127.40
	NIGGLI MATTHIAS	46.30	
	ATTINGER JEROME	40.08	
6.	GREAT BRITAIN		
	DUNCAN JONATHAN	42.25	127.49
	STEVENSON JAMIE	44.51	
	WREN RICHARD	40.33	
20.	JAPAN		
	鈴木　篤	53.09	184.32
	諏訪　高典	65.07	
	森　泰祐	66.16	
21.	SPAIN		189.12
22.	ROMANIA		191.08
23.	SLOVENIA		196.54
24.	ISRAEL		216.45

ビデオ販売のお知らせ

下記のビデオテープを販売しております。
ふるってお申し込みくださいませ。

1　WOC93セレクションレースのビデオ
　申込金　3000円以上（賛助会員の方）
　　3500円以上（賛助会員でない方）
2　WOC93のビデオ（作成中）
　申込金　4000円以上

〈申込方法〉

■ 郵便振替にて下記口座に振り込んでください

口座番号　東京　6－651396
加入者名　WOC　SQUAD　JAPAN

■ 裏面の通信欄には『○△ビデオ希望』とご記入ください

〈問い合わせ先〉

斎藤　宏顕　0476－46－1779
稲葉　英雄　0564－55－5602

エリートポイント中間報告

９３年度のエリートポイントも対象１２大会のうち、残すレースが３レースとなった。（本誌が届く頃には２レース？）。１１月２１日の西日本大会終了時点での中間集計は下表に示すとおりである。

（集計：小林岳人氏）

男子では最近絶好調の菅原琢と、しぶくも竹内藤雄が１位。朝日大会で優勝した羽鳥和重があとを追っている。

合計ポイントは、得点の高い４大会を合計する。村越真、鹿島田浩二の両名は、出場レースがそれぞれ２レースしかないため、合計得点がまだ低い。両名は出場大会を異にしており、それぞれ、走ったレースではすべて優勝を飾っている。直接対決をしていないのがつまらないところだ。

WMの代表選手にもなった若きスーパーエリート入江崇は、Ｈ２１Ｅに出れないため、得点を稼げない。Ｈ１９－２０Ｅは最高得点が１５点しかないが、出場したレースはすべて優勝で飾っている。

女子は圧倒的な強さで木植早生が１位。終了した９大会中（全レースに出場）、６大会を優勝で飾っている。あとの３大会は２つを福士淑子、１つを宮本知江子がとっている。福士は参加レースが少なく得点を稼げていない。

注目すべきは２位の志村聡子である。彼女はＤ１９－２０Ｅのランナー。女子の場合、公認大会の多くでＤ２１ＥとＤ１９－２０Ｅが同一コースとなっているため総合順位で得点が与えられる。このＤ１９－２０Ｅのクラスでは、志村聡子、千葉あかね、金田収子の３人が圧倒的な強さを誇る。朝日大会の志村１９点、千葉１８点、京葉大会の金田１７点は賞賛に値する（女子は満点が２０点）。この３人は、そのままインカレの有力な優勝候補とも言えよう。志村と千葉はNTメンバーでもある。

インカレ、全日本を控えエリートの勝負動向には大いに注目されたい。本誌でも随時取り上げていくつもりだ。

１９９３年男子エリートポイント																	
順位	氏名	合計	山梨	(19)	静岡	(19)	東大	O-CUP	(19)	筑大	朝日	(19)	東日本	(19)	京葉	(19)	西日本	(19)
1	菅原琢	94	(21)		24		(19)	(4)		25					23		22	
1	竹内藤雄	94	25				(12)	24		24			21		(8)			
3	羽鳥和重	91	(16)				25				25				20		21	
4	広江淳良	86			16		(13)	23			24		23					
5	加賀屋博文	85	17		22					22					24			
6	富田吉郎	81	(8)		(1)		(16)			19	22		22		18		(17)	
6	佐藤隆徳	81	19				21			17	(6)		24				(6)	
8	鈴木卓弥	80	(6)		20						20				21		19	
9	樋口一志	75			18								25		19		13	
10	鈴木雄輔	72	22		13			(7)		14	23				(6)			
11	国沢五月	71	5		(3)								20		22		24	
12	五木圭介	66						20		20					10		16	
13	宇野裕人	64	(7)				9	(1)		23	19		13		(3)			
14	山本英勝	62			17			18							13		14	
15	稲津隆敏	57					5	19			17				16			
16	瀧川英雄	56	24		10		22											
16	櫻井太郎	56			21			(5)			12		16		7		(1)	
18	澤田晴雄	52					24	17		5			6		(5)			
18	稲葉英雄	52					20								9		23	
20	森内知男	51	20		(5)					8	8				15			
21	田中正人	50			(2)						18		9		12		11	
21	鹿島田浩二	50			25										25			
21	村越真	50						25									25	
24	落合公也	49								12			19				18	
25	入江崇	48				15	18	15								15		
26	砂川貴幸	45	9		19			16		1								
27	元木悟	41	(4)		4		7			21	9							
28	武田光	39			15					10					14			
29	竹沢聡	38	18							11							9	
29	井上健太郎	38	14		9						15							
31	川口匡	37									10		10		17			
31	JORG VETTER	37					15	22										
33	石井博和	36					6			13			17					
34	中嶋哲夫	35	12				23											
34	小林哲	35					12			9						14		
36	福留潔	34					1	21			1		11					
36	太田尊司	34			14												20	
38	利光良平	33			12						21							
38	上坂寛之	33								16					2		15	
40	藤平正敏	31	11										15				5	
40	小河原成哲	31	13							18								
40	宇佐美俊哉	31						13					14				4	
43	梅林正治	26									14		12					
43	B.ﾐﾙﾎﾞﾙﾄ	26	15					11										
45	岡安隆史	25				3					13					12		
46	高島和宏	24						14			3						7	
46	吉田勉	24			7		17											
48	藤井範久	23	23															
48	清谷智弘	23						9						14		5		
48	中村弘太郎	23			23													
51	小長井信宏	22			8								2				12	

52	平井均	19						8							11			
52	加藤裕	19					10									9		
54	木本浩慈	18											18					
54	佐藤信彦	18											8				10	
56	安斎秀樹	17					8	2		7								
56	緒方賢史	17				7		10										
58	田代雅之	16	10		6													
58	山根卓二	16								2						1		14
58	中島陽一	16									16							
61	佐々木良紀	15				8				4				11				
61	鈴木篤	15								15								
61	藤城公久	15				5		3			4			8		6		
61	吉村年史	15				13												15
61	藤咲芳春	15												15				
66	小林岳人	14	2					12										
66	松下愛則	14					14											
66	川田正道	14				14												11
69	大西淳一	13												13		8		8
69	山内亮太	13				10										13		13
71	高野真弘	12												12				6
71	十川亮	12				12								3				
71	永井孝雄	12				2										11		12
71	安良和寿	12									2					10		
75	豊島利男	11									11							
75	小林毅	11			11													
75	吉田孝志	11				11												
78	山口信幸	10												10				
78	中村卓史	10																10
80	中里元彦	9																9
80	清水和彦	9				9										4		
80	川合康夫	9												9				
83	岩出雅人	8											5				3	
83	鈴木康史	8															8	

僕を覚えてね：ＮＴ人物紹介

樋口　一志　（朱雀ＯＫ）

先月、東日本大会H21Eで優勝をした。平成元年度インカレチャンプの実力は健在だ。しかしこの秋の大会を特に目標としていた訳ではない。WC（ワールドカップ）に出場するためにエリートポイントをとらないといけないので走ったそうだ。集中したほうが楽と11月の公認大会に全参加した。

彼が目標とするワールドカップは来年４月、オーストラリアとニュージーランドで開催されるもの（ワールドカップ自身は他にあと２シリーズある）。クラシックをちゃんと走れるようにトレーニングをしているという。

いまだに学生の彼は、同年度９月のユニバーシアードも出る気でいる。こちらはリレーをメインに。日本チームに何か結果を残したいといっていた。

来年度の彼には期待が寄せられる。

実は、朱雀ＯＫの会長をつとめる。

このクラブ、大会プログラムに名前が出始めたころは単なる名前だけの仲良しクラブかと思ったものだ。だがその見方はちょっと失礼だったようである。ヨーロッパスタイルの地域密着型クラブを目指す。

発起人は、彼や中村弘太郎、寺鳴一樹氏たち。特に弘太郎が中心になったようだ。『スウエーデンの地域クラブを見てて“いいな”と・・・・。ああいう感じで、たとえば週末になったらすぐ集まって走るとか・・・・地域を限定して本当の意味での地域クラブを目指そうと思ってます。』

京都に限定したクラブである。実際は、転勤などで人の移動が激しくなかなかたいへんだと言っていた。転勤で他府県へ移ればもちろん退会である。日本の一般的な地域クラブは、移動があってもなかなか退会しない。結局広域クラブとなっている例が多い。でも『それはそれで、それによって会員がＯＬ界につながっているという意味ではいいが・・・・。ただ地域密着型のクラブももっとあってもいいのではないか』筆者の知る限りでは、同様のクラブは茨城県のつくばROCなど数少ない。彼等の活動は、一つのスタイルをして、ＯＬ界に一石を投じてくれそうだ。

来年（今年度）３月２１日、三重県で開催される全日本大会の翌日、『青山高原リレーＯＬ大会』を主催する。６人制の、クラブ＆オール大学（同一大学出身・在学者で構成）対抗という形式をとっている。地域クラブ、大学クラブの総力戦として非常に興味深い。３月が楽しみである。

私立洛星高等学校出身。

京大ＯＢでＮＴメンバーの鈴木康史とは高校の同期、いや小学生のときから知っていたという。でも２人ともオリエンテーリングを始めたのは大学に入ってから。

高校時代はバスケットボールをやっていた。京都にもう１校強いチームがあって、インターハイには出れなかったそうだ。

東京大学理科。類へ入学。

大学では、インカレで勝てるスポーツをやろうと思っていたらしい。オリエンテーリングもそういう対象の競技と見ていた。バスケに来いという先輩をけって、ＯＬＫを選んだ。１年の時その話をしたら『おまえなんか無理だ』といわれた。しかし、２年生の時からインカレでは個人・団体ともエリートを走り続ける。

４年の時、霧の上のような鹿島田浩二が入学してくる。“こいつに勝てないとインカレで勝てない”というのが身近に入ってきた。やる気にならないほうがおかしいという。この年、インカレチャンプに。鹿島田浩二との対決はインカレ史に残る名勝負となった。村越コーチによると、これが、今日の樋口がある大きなきっかけであると言う。更に今の彼を評して『うまさを持っているし、ここ１番というところではレースができる。本当にWM級になるには、当時カッシーに対して向けたエネルギーを、僕とかにまた向けられるようになるといい。そうすれば更に１段とレベルアップするんじゃない。』

心理学を専攻していたが５年生の途中で東大を中退。本物の医学がやりたくて滋賀医大へ入学。将来はお医者さんである。

現在３年生。大学ではスキー部に入っている。今年の冬はスキーばっかやる予定といっていた。

１９９３エリートポイント女子																		
順位	氏名	合計	山梨	(19)	静岡	(19)	東大	O-CUI	(19)	筑大	朝日	(19)	東日本	(19)	京業	(19)	西日本	(19)
1	木植早生	80	20		(19)		20	(17)		20	20		(20)		(19)		(20)	
2	志村聡子	74	(8)						(15)	18	19		19		(15)		18	
3	金子しのぶ	72	18		18		17	19			(11)				(16)		(15)	
4	渡辺初実	68	19		15		18	(13)			16				(6)		(5)	
5	宮本知江子	64	14		20		13	(12)			17							
6	鈴木夕紀子	62						(11)		16	(12)		15		14		17	
7	長谷川恵子	59	(7)		13			16			(2)		17				13	
8	福士淑子	57			17			20							20			
9	草野望	56	12		(12)		16	14		(7)	14						(2)	
10	高野由紀	52	17		16		19											
11	加納尚子	51						15		15			16		5			
12	三井由美	50	11		(8)		10	9					12				8	
12	田島利佳	50	13		10					(10)	13				(8)		14	
14	千葉あかね	45				15			14		18				12			
15	飯村亜紀子	44								13			18		13			
16	金並由香	43	4							14	6				(4)		19	
17	渡辺弥生	42			11		14			6					11			
18	宇野明子	33	15												18			
19	高木貴美江	32			14			10					8					
20	船橋亜希子	31								17			14					
21	金田収子	29					12								17			
22	幡野淑子	26				10			10		9						7	
22	河合志穂	26				9					1		10				6	
22	出田裕子	26	16												10			
22	下江範子	26	9		5												12	
26	酒井か代子	25	10				15											
26	原志保子	25					7								2		16	
28	高松伴子	24	2			14	8											
29	濱田由紀	23	3		9			11										
30	梅本敬子	22				13			13								9	
31	酒井佳子	19								19								
31	中嶋久美子	19								11	8							

私を覚えろよな：ＮＴ人物紹介

福士　淑子　（鳩の会）

昨年の５月、富士宮のAPOCで優勝をしたとき、ああいうテラインが得意であることをこう表現していた。『だってバカでもできるんだもん』。難しく地図読みをしなくても、何も考えず歩測とコンパスでオリエンテーリングのできるテラインが好き。それが彼女のスタイルだった。富士宮や山武を走らせるとだれにも負けない。裏を返せば技術が無いようだが、そんな彼女の成長ぶりを山岸コーチはこう語る。

『（コンパスと歩測という）基本型は今でもそう。そのやり方でうまく行っている。でも最近、地図の読み違えとかのボケをする確率もずいぶん下がってきた。WMでクラシカルを走ったことも大きな自信なんじゃないか。よっちゃん（福士の愛称）にしてみれば１レッグ、１レッグが非常に辛かったはず。それでもまともに走ってきた。ミスの瞬間まではいってるはずだけど、その直前で立ち直れるタフさをもってるんじゃないかな。本来なら苦手なレースに臨まないといけない時にちゃんと進歩しながら結果を残してるから、それはすごいと思うよね。よくやってると思う。』

ずいぶんな誉め言葉となった。

彼女の輝かしい戦績は今更紹介するまでもない。大学３年のとき、ユニバーの選手に選ばれた頃から世間に注目され始める。４年生のとき初めてWM選手に。修士１年で２回目のユニバー。そして修士２年の今年２回目のWM。４年連続、日本代表の看板を背負って海外へ行った。

１０月にWMを終えてからは、目先の目標がなくなってしまったようだ。今は修士論文用の実験（微量金属の濃縮と定量）に夜遅くまで拘束されている。トレーニングすらままならない。

来春、社会人としての新しい生活が待っている。どんな風にオリエンを続けられるのか、彼女自身にも予測はつかない。将来への期待も山岸コーチに聞こう。

『彼女足は速いのよ。日本の女子オリエンティアは、今、一番足りないのは走力で、トレーニングをして世界に追い付こうという考えが主体を占めているが、でも速くなるためには、足より技術的スタイルをきちんと考え直さないと行けない。彼女もあれだけの足を持てば技術的な面で何かきっかけをつくれば、うんと速くなるはずなんだ。個々のテクニックを数珠玉のようにつなげる手続きが必要。もっと具体的に言えば、２年後のドイツ（のWM）は、技術的にはやさしいはずだから、手続きを完成しないで行っても成功はできると思う。でもその次はノルウエー。少なくともノルウエーまでは行ってほしいと思っているが、それまでには手続き面を完成しておかないと成功は難しい。ドイツを踏台にして、ノルウエーで成功してほしい。』

とのこと。本人に伝えると「ああ、もう路線が決められてる訳ですね。」あっさりと答えていた。

東京都立戸山高等学校出身。

千葉大学工学部　合成化学科卒業。

現在、千葉大学大学院で分析化学を専攻する。

高校時代は、ブラスバンド部でクラリネットをやっていた。大学が遠いため、休日に活動できるものを始める。旅の会とオリエンテーリング部に入った。両方同じようなニュアンスだったようだ。一人でやると聞いて“ええっ”。よくある話だが、いつの間にかこういうことになった。

自分のオリエンにはある信念を持っている。

『楽しくなければオリエンテーリングじゃない。途中でへばったりするのってつまんない。エキサイティングでスリリングなレースをするためにトレーニングもしなきゃ。狙ったりすると無理がかかる。日光インカレでそういうのにトライしたけど、そういう経験が少なかったのでうまくいかなかったのかな？意識するとまだ弱い。』

で、あまり結果にこだわらないようなことを言っているが、反面負けず嫌いで気が強い。そこらへんの意識のバランスがうまく福士のスタイルをつくっているのだろう。

９０年度・インカレ個人戦４位。
　　全日本D19-20E優勝。
９１年度・インカレ個人戦３位。
　　全日本D21E３位。
９２年度・全日本D21E３位。

めんどうみは、いいタイプでもないようだが愛想はいい。だれから見ても、とりあえずかわいいといえるようだ。

女性の間でも人気が高い。

33	田垣尚美	18						18										
33	山下和子	18				12									3		3	
33	小林正子	18	6				4	8										
36	石川恵美子	17			6		11											
37	片岡由起子	16									3		13					
38	長岡理恵	15									15							
39	本間厚子	14					6			8								
40	佐藤由布子	13							12								1	
40	稲村仁美	13													9		4	
42	清宮秀子	12								12								
43	菅原路子	11				8			11									
43	岡原桂子	11											11					
43	吉澤由実子	11				11												
43	阿部真弓	11															11	
47	植田佳子	10															10	
48	山口純子	9											9					
48	新桂子	9					9											
48	小林拓恵	9				7			9									
48	岩谷ひろみ	9								9								
52	金澤麻衣	7											7					
52	河野典子	7													7			
52	坂元祐子	7	5		2													
52	林ゆりこ	7									7							
52	白井由美	7			7													
57	鳥羽都子	6											6					
58	大坪奈美江	5					5											
58	高松伴子	5									5							
60	三宅朋美	4									4							
60	北川文子	4			4													
62	吉川薫子	3			3													
63	小山由美子	1													1			
63	真山陽子	1	1															
63	木村祐子	1			1													

私を覚えろよな：ＮＴ人物紹介

渡辺　初実　（横浜ＯＬＣ）

福士の取材で山岸コーチに電話をかけた時こんなことも言っていた。

『彼女（福士）おもしろいんだよ。一度テラインで通ったとことかほとんど覚えて無い。よくそれであれだけ速く走れるよな。こういうのでＯＬが遅いと思っている人がいたとしたら言いたいんだけど、それはどうやら必要十分条件ではないらしい。』筆者は最初の一節を聞いて（いかにも福士だと）吹き出してしまったが、同時にこう応えてしまった。『渡辺初実の逆ですね。』

初実は一回通ったところをよく覚えている。走ったことのあるテラインでレースをするとめっぽう速いのは殊に有名。本人によると『車で通って反対側から来ても“あー、ここ前通った。”とか、道でも覚えている。場面場面をよく覚えているから・・・・』もちろん福士は道路の記憶も弱い（余談だが稲葉英雄氏も弱いらしい。ちなみに筆者も弱い）。脳のシステムが何か違っているのだろう。筆者は、12月12日に放送される「ＮＨＫスペシャル・脳と心（３）人生をつむぐ臓器・記憶」を楽しみにしている。

ＯＬ界に名を売ったのは昨年の春、ユニバーの代表に選ばれたときだろう。インカレチャンプの小西陽子や田島利佳を抑えてセレクションを通過した。周りには意外なことだったかもしれない。でもそれは、この夏WMのセレクションを通過したことだって同じだ。彼女にはインカレや全日本大会でその名を売る結果に恵まれなかった。まだ、絶対的な強さがあるとは言えない。それでも、意外とも思えることを２回成し遂げてくれたことこそ評価に値しよう。特に、社会人１年目の今年は、WM通過に大きな意味があった。

彼女は高校化学の非常勤講師を勤める。WMのための休みをもらえなかったらやめさせてもらうつもりだったらしい。でも、校長先生がこういう世界を推奨していたそうで、難無くクリアーできた。社会人としてはラッキーだった面もある。

『仕事を始めて思ったことは、自分で時間をつくらないと何もできないなってこと。学生のように流されてる面が少ないから大会ごとに目標などを明確にしないといけない。今回は、インカレが終わってそのままの流れでよくわかんないうちに（周りからWMがあるよって持っていかれた形で）セレクションも通って行ってしまったけど、次のドイツではちゃんと目標をもって自分のレースがしたいかなって・・。WMに行かなかったらＯＬをやめようと思ったこともあったかもしれないけど、WMに行くことで続けていけたしやるべきことも、色々見えてきたし、そういう面でいい方向に働いてくれた。』

多分に彼女は、その流れに恵まれた裏を返せば大学を卒業した女子オリエンティアの動機づけがいかに困難なことかを示しているのかもしれない。彼女には、まだまだこれからも活躍してもらいたいものである。

私立日本女子大学付属高校出身。

日本女子大学家政学部家政理学科１部化学系卒業。

大学に入った時、友達に連れられてオリエンテーリングクラブの説明会に行った。はまって、残ってしまったのは自分だけだった。

早大ＯＣ内では早くからその速さを認められていた。早大ＯＣの会内杯であるQueen’s Cup（夏冬の年２回）では４連覇。最後となった滋賀インカレで個人戦５位。この春の全日本大会はD21E９位だった。

リレーは得意。インカレ団体戦は３年生で初めて登場しメンバーがすべて入れ替わった日本女子大学を３位に。同一コースパターンの１位だった。４年時も２走の中でトップタイム。全国リレーでも神奈川県の代表として活躍をした。

大学では速記のクラブにも入っていた。本や料理も趣味らしい。

しゃべり出すと速記のごとくよくしゃべる。

ちょっと自意識の強いやつである。

SQUAD　広報担当　桐田幸宏

オリエンティアのための本棚

第５回：海老沢泰久　「ヴェテラン」　文芸春秋社

文：村越　真／カット：早川喜代美

リレーオリエンテーリングはチーム力の戦いでもある。選手にその役割をどう認識させるか、個々の選手の力を引き出すためにはどんな走順にするのがいいのかと、コーチは頭を悩ます。なかでも１走には苦労する。スピードがあって、周囲の動きを見つめつつも自分のペースを崩さずにレースを進める能力が特に要求されるからだ。私にとっては１走はとても好きな走順だが、多くの女子にとっては余計なプレッシャーとスピーディーな走りを要求される、あまりやりたくないレッグのようだ。ここにコーチのもう一つの苦労がある。やらせるだけなら簡単だ。だが自分こそがチームの中でもっともふさわしいのだとその選手が信じなければ思わぬ失敗が待っている。意中の選手に一走をさせるために、コーチは口説き文句のように耳元でささやく。「おまえだけが・・・」。

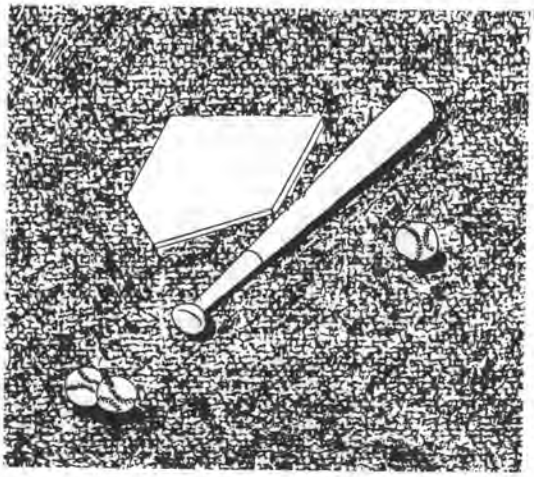
もちろんどんな走順でも喜んで引受け、コーチや周囲の期待に応じた結果を出してくれるけなげな選手もいる。静岡大学ＯＬＣにいたＵもそんな選手だった。彼女は２年生の時初のインカレ団体戦で「筑波に追いつかれたらついていけ、そうすれば６位になれる」という私のセリフを呪文のように唱え、そして６位に相当する（記録は１走失格）タイムで帰ってきた。翌年は２走として、また最後のインカレでは１走として３位という好順位でチームの４位入賞に大きく貢献した。どんな役割でも好き嫌いせずにこなす選手は、きっと本当にオリエンテーリングが好きなのだろう。

本書ではそんなプロ野球の選手６人が描かれている。たとえばファイターズにいた古屋英夫だ。彼は１番から９番までの全ての打席でホームランを打つという珍しい記録を残している。「普通、４番を打った選手が８番だの９番を打つなんて信じられないことですよね。でもぼくは、試合にさえ出られればそんなことはぜんぜん気にならなかった」

何かというと江川と比較され、チームメイトからも敬遠された元巨人の西本もそんな選手の一人である。あくまで先発に拘りリリーフを要求されると露骨に嫌な顔をする江川に対して、彼は投げろと言われれば先発でもセーブでも中継ぎでも喜んでする選手なのだ。その反面練習方法については自己主張を躊躇しない。投手として内野手と一緒にノックを受けることは今では当たり前の練習方法だが、当時は彼が合理的に考えてやり始めたことである。バッティング・ピッチャーも勘弁してもらうように頼んだ。ライナーからピッチャーを守るネットがあると投げにくくフォームを崩してしまいそうな気がするからである。理由ある異端も日本的な集団の中では「わがまま」としか映らない。

彼の練習熱心さも、チームから敬遠される理由の一つになった。練習の成果は結果に出る。結果に出れば楽しい。だから彼にとって練習は拘束ではなく、楽しみへの過程なのだ。他の選手より少しでもよけいに走ろうとグラウンドでのランニングも集団のいちばん外を走る、部屋に帰っても腹筋と腕立てをする。休日も外出しないで練習する。ウーン、これじゃあやっぱり浮くかな？練習は苦しいもの、人間は楽をしたいものという」固定観念があるからなあ。プロ選手ですらそうした図式の中でスポーツに携わっているのだ。

本書は、そうした現状に対する著者の意義申立てでもあろう。同じ著者の「監督」（新潮社）も品切れになっているがお奨めのスポーツ小説である。特にコーチ業を営む読者の方には図書館で探して読むだけの価値もある本である。



平成5年度 第15回 朝日オリエンテーリング大会（別所虚空蔵尊）

平成５年１０月３１日（日） 於 新潟県中蒲原郡村松町

コース ①

H21E H19-20E 11,000 350

▷						
1	204					
2	212					
3	208					
4	225					
5	229	↑				
6	238					
7	245	↓				
8	247			1.3		
9	248					
10	258			1.5		
11	261					
12	272					
13	278					
14	279					
15	280					
16	777					

○-----200----→◎

コース ②

D21E H35A D19-20E 6,900 250

▷						
1	205					
2	212					
3	227	↙				
4	233					
5	235	→				
6	241					
7	243	↓				
8	254					
9	256	↘				
10	266					
11	268					
12	888					

○-----330----→◎

コース ③

H21A1 8,700

▷						
1	214	←				
2	217	↙				
3	226					
4	232	↑				
5	236					
6	244	↑				
7	246					
8	250			1		
9	271					
10	274					
11	269					
12	888					

○-----330----→◎

コース ④

H21A2 8,700

▷						
1	215	↘				
2	217	↙				
3	226					
4	230	→				
5	237					
6	242	↑				
7	246					
8	250			1		
9	271					
10	275	↘				
11	270					
12	888					

○-----330----→◎

コース ⑤

D21A H40A DA 6,400

▷						
1	210					
2	228	←				
3	231					
4	239					
5	242	↑				
6	257					
7	260	←				
8	274					
9	273					
10	888					

○-----330----→◎

コース ⑥

H45A D19-20A H17-18A 5,900

▷						
1	203					
2	215	↘				
3	218					
4	251			1.5		
5	249			2.0		
6	262					
7	265					
8	270					
9	888					

○-----330----→◎

コース ⑦

H50A H15-16A O35A O40A 4,700

▷						
1	203					
2	210					
3	216					
4	253					
5	255			2.5		
6	271					
7	273					
8	888					
9						

○-----330----→◎

コース ⑧

H55A H60A H13-14A D45A D50A D17-18A 4,200

▷						
1	206					
2	219					
3	253					
4	255			2.5		
5	275	↘				
6	276					
7	888					

○-----330----→◎

コース ⑨

H19-20A1 7,000

▷						
1	213					
2	216					
3	224					
4	230	→				
5	239					
6	242	↑				
7	255			2.5		
8	265					
9	270					
10	888					

○-----330----→◎

コース ⑩

H19-20A2 7,000

▷						
1	211			2.5		
2	216					
3	223	↗				
4	232	↑				
5	240					
6	244	↑				
7	253					
8	265					
9	269					
10	888					

○-----330----→◎

連絡協だより

□東海地区連絡協報告

第7回東海クラブカップリレー
男子　三河ＯＬＣ　６年ぶり２度目
女子　浜松ＯＬＣ　初優勝（初の愛知県外）

寒風吹きすさぶ湖西市運動公園において，第7回東海クラブカップ・リレー大会が開催され，今年も熱い戦いが繰り広げられた。京都大学大会などの大会が重なった11月28日，東海地区のクラブが一堂に会して行われるこの大会は初の愛知県外の大会となり，湖西ＯＬ同好会の主管において運営された。

参加チームはクラブカップの対象となるクラブＡが25チーム，同じく女子のクラブＤが4チーム。他はクラブＢ：10チーム，一般Ａ：２チーム，一般Ｂ：５チームであった。クラブＡでは，稲葉の抜けた‘ルーパー’の連勝成るか，また稲葉を得た‘三河ＯＬＣ’が連勝を阻止できるのか。クラブＤは，古沢久美さんが娘さんとチームを組んだため苦しくなった‘つるまいＯＬＣ’の３連勝成るかが，興味のいくところ。

クラブＡは三河のベテラン清水が１走でトップと58秒差の４位と大健闘し，２走のエース稲葉が安定した走りであっさりトップに立ち，さらに３走の河合が快走を見せて優勝した。一方，ルーパーは瀬口がトップに８分離されて苦しくなり，２走の竹下が５位に上げ，３走の落合もがんばったが，結局15分近い差がついて２位に終わった。３位は１，２走で２位をキープした名大が入った。

クラブＤは浜松ＯＬＣが安定した走りで優勝。初めて静岡にカップを持ち込んだ。２位には古沢さん親子のチーム（つるまいＯＬＣ）が入り，３位にもつるまいＯＬＣのチームが入った。

大会終了後，連絡協議会の定例会が開かれ，大会日程の調整などを行なった。

□

12／23　東海学連定例戦――中止
１／２　東海学連新春ＯＬ大会（名古屋・鶴舞公園）
２／３　愛知県指導者研修会（愛知青少年公園　主管：つるまい OLC）
３／６　岐阜ＯＬ協会20周年記念大会（岐阜県関市・百年公園）
５／８　東海クラブカップリレー大会（愛知県）
５／15　中日東海ブロックＯＬ大会（岐阜県）
７月～８月　東海地区夏合宿（長野県２日間大会に参加）
９／24･25　ルーパー２日間大会（岐阜県・保古の湖）

□

文責：小野　盛光(三河OLC)

情報あれこれ

□来年度（平成６年度）役員　早くも決定

＝筑波大学オリエンテーリング愛好会＝

同会より12月初めに，早くも次のようなお便りをいただきましたのでご紹介いたします。　編集部

□

拝啓　今年も年の瀬が迫り，ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。

今年中は筑波大学ＯＬ大会を始め，何かとお世話になりまして，誠にありがとうございました。

来年も引き続き，当会へのご指導，ご助力のほど，よろしくお願い致します。

なお，平成六年度の新役員が以下のように決定致しましたので，おしらせします。

敬具

会長：藤城　公久　（農林２）
主務：西村　克彦　（比文２）
渉外：岡原　桂子　（生物２）

〒305 茨城県つくば市天王台１－１－１
筑波大学体育系サークル会館内
筑波大学オリエンテーリング愛好会

編集部より

◆筑波大からのお便りにもありますように，本当に気忙しい年末となっています。１９日の千葉大大会にはお伺いして本誌をお配りさせていただこうと考えておりましたが，家事や勤務先から持帰りの仕事などもあり，あきらめます。◆来年１月末から郵便料金値上げ（定形25gまで62円↗80円，50gまで72円↗90円，第三種は２・３月は10円幅ですが４月からは20円幅の↗）になり，再来年からの消費税＝印刷費増も新聞紙面を賑わす中下記の購読料金アップも焼け石に水かと憂鬱な年の瀬です。。ま。良いお年を。

―――― 三洲　流人（ミス ルート）

□来年度の購読お申込みはお早めに

先月号で詳しくお知らせいたしましたが，Ｏ－ＪＡＰＡＮの購読料金を来年４月より改定させていただきます。

新料金は下記のとおりですが，本年１２月３１日（必着）までに，来年度４月からの購読を申し込まれる場合は，旧来の料金，一般 3,000円（来年度における高校生以下 1,800円）でお受けいたしますので，お早めに手続きをお願いします。

――――Ｏ－ＪＡＰＡＮより――

Ｏ－ＪＡＰＡＮ　発行人／田口　昭子　：　購読料　年間４月～３月 ¥3,600　：　編集責任者／田口　肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5　：　（高校生以下）　¥2,400　：　Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL.045-891-7004　FAX.045-891-2500　：　'93.10月～'94.３月　¥1,500　：　Editorial Address:
分室=Annex　TEL.0287-77-1977　：　１部あたり頒布価格　¥300　：　7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座／（番号）横浜７－46870　（加入者名）Ｏ－JAPAN 編集部　：　Yokohama, 233 Japan